



# ジオパーク通信

洞爺湖有珠山ジオパーク推進協議会だより

第12号  
洞爺湖有珠山ジオパーク推進協議会  
(洞爺湖町役場ジオパーク推進課内)  
☎ (0142) 74-3015



今回のジオパーク通信では、江戸時代以降、活動を再開した有珠山についてお伝えします。

江戸時代からは、文字による記録もたくさんのおさるようになってきました。

そのおかげで私たちは、当時の噴火の様子や被害状況を知ることができます。



壮瞥公園からみた昭和新山(左)と有珠山(右)

噴火した年	できごと	
1663年 (寛文3年)	約7,000年ぶりの噴火	家屋の焼失、死亡者5名。 壮瞥には3m、白老にも1mの火山灰などが降った。
17世紀末	古文書の記録なし	
1769年 (明和6年)	有珠山の山頂から噴火	長流川沿いの家が焼失。
1822年 (文政5年)	山頂から噴火 オガリ山が誕生	火砕流と火砕サージなどで有珠・虻田牧場の馬約1400頭、住民103人が死亡。
1853年 (嘉永6年)	山頂から噴火 大有珠が誕生	前回の災害の経験から、住民がいち早く避難。
1910年 (明治43年)	山麓で噴火 四十三山が誕生	地元警察官が呼びかけ、住民が避難。 洞爺湖畔で温泉が湧き洞爺湖温泉が誕生。
1943~45年 (昭和19~20年)	昭和新山が誕生	麦畑だったところが約400mも盛り上がり、昭和新山が誕生。
1977~78年 (昭和52~53年)	山頂から噴火 有珠新山が誕生	8月6日から地震が続き、翌日山頂から噴火。大量の軽石や火山灰が降る。翌年泥流が発生、3名が死亡。
2000年 (平成12年)	山麓で噴火 火口がたくさんできる	西山山麓、金比羅山付近に火口がたくさんできた。 事前の避難により死者・負傷者なし。

有珠山は、溶岩の粘り気が強く、地下から溶岩が上がってくるときに、周囲の岩石を割ったり、押しつけるため、地震が起こります。  
有珠山は、噴火を事前に教えてくれる山なんですね。



## ※ 世界ジオパークの再認定審査が行われます ※

洞爺湖有珠山ジオパークが加盟している世界ジオパークネットワークでは、4年に1度、再認定審査を受けることが義務づけられています。洞爺湖有珠山ジオパークも加盟から4年が経過し、今年7月24日~27日、ギリシャとポルトガルの審査員によって、再認定審査が行われることになりました。再認定審査では「噴火遺構の保護」「ガイドの組織化」「地域の経済活動」など、世界ジオパークとしての活動が審査されます。